

令和8年度学校経営計画に対する自己評価計画書

重点目標		具体的取組	主担当	現状	評価の観点	達成度判断基準	判定基準	備考
1	1人1台端末の活用を深化させ、AIを道具として使いこなす主体的・対話的で深い学びを実現し、実社会で通用する課題解決能力を育成する。	① 県工学びのスタンダードと「R80」を活用し、かつ学校研究の成果の拡充・継承を目標とすることにより、創意工夫されたわかりやすい授業を実践する。	教務課 各教科	「県工Thinkingtime」や「R80」の取り組みが多くの教科で定着しつつあり、効果も上がっている。またChromebookを活用し意見交換や記述を求める授業にも取り組んでおり、これらの取組みをさらに進め、学校全体の取組みとしていくことが大切である。	【満足度指標】 思考力、表現力が身についたと生徒自身が実感できることが、授業に対する満足度につながる。	「Chromebookを活用した意見交換や記述を求める授業」や「県工Thinkingtime」、「R80」などを通して、根拠をもとに論理的に発言したり、記述したりすることができるようになったと回答する生徒の割合で判断する。 [継続] A 75%以上 B 65%～75%未満 C 55%～65%未満 D 55%未満	C以下の場合、教務委員会、各教科等を中心に、目標提示および評価方法などを再検討する。	生徒を対象にアンケート調査を実施する。 (7月、12月)
		② 教師個人及び各教科にて積極的に主体的・対話的で深い学びを取り入れた授業改善に取り組むことで、学習の定着を実現する。	教務課 各教科	家庭学習時間の減少や学習意欲の減退等の課題に対応する必要性が指摘されている。一方で、資格取得に向けた補習や取り組みは積極的である。教科の予習や復習に関する家庭学習の習慣を身につけさせる必要がある。	【満足度指標】 予習・復習及び課題や資格取得に向けた学習等に授業以外で主体的に取り組んだと実感できる。	予習・復習及び課題や資格取得に向けた学習等に取り組むことができたかどうかを、生徒対象の学校評価アンケートの肯定的評価の割合で判断する。 [継続] A 85%以上 B 75%～85%未満 C 65%～75%未満 D 65%未満	C以下の場合、教務委員会、各教科等を中心に、意識付けの方法や課題の出し方を再検討する。	生徒を対象にアンケート調査を実施する。 (7月、12月)
		③ 授業の情報化推進の一環として、ICT機器やAIの活用を促進し、学力の定着が実感できる授業を目指す。	学習情報課	全普通教室でプロジェクターを使用する環境が整い、ICT機器の活用が進められているが、授業において生徒がChromebookを活用する授業に向けて工夫・改善を図る必要がある。	【努力指標】 ICTやAIを活用した公開授業等を実施し、研究協議会等での成果を授業改善に活かす。	1人1台端末の活用等により授業が工夫されていると回答する生徒の割合で判断する。 [継続] A 70%以上 B 60%～70%未満 C 50%～60%未満 D 50%未満	C以下の場合、学習情報課を中心に、ICT機器・AI利用に係る研修のあり方を見直す。	生徒を対象に授業評価アンケートを実施する。 (7月、12月)
2	規律遵守に加え、「県工生としての矜持」を認識する取り組みを通じ、社会から信頼される安全管理を含めた高い規範意識を育成する。	① 校訓を掲げることにより、共通の理念のもと、一人ひとりの生徒の愛校心や帰属意識等、精神力を高め、将来の職業人に相応しい、規範意識や基本的な生活習慣を身につけた生徒を育成する。	生徒指導課 各学年	卒業後に実社会へ出ていく本校生徒にとって基本的な生活習慣である挨拶や時間の励行等については常に指導しているところである。確かに生徒は挨拶を行っているが、それは先に教師が挨拶をしているからであって、決して生徒が積極的に挨拶を行っているのではない。将来の社会人としての基本的な生活習慣の確立を目指し遅刻防止指導は引き続き取り組む必要がある。	【努力指標】 人間性の溢れた活力ある校風を築くことを目指し、全校生徒が元気で爽やかな挨拶の励行を促す	日頃、生徒がしっかりと挨拶を行っているかどうかを、教師対象の学校評価アンケートの肯定的評価の割合で判断する。 [継続] A 85%以上 B 65%～85%未満 C 45%～65%未満 D 45%未満	C以下の場合、生徒指導課・学年団を中心に指導の改善を図る。	教師を対象に学外評価アンケートを実施する。 (7月、12月)
		工場見学やインターンシップに参加することで職業人としての誇りとともに、安全管理を含めた高い規範意識を持ち、新時代の工業技術者としての基礎技能と実践力を育てる。	各学年	工場見学やインターンシップについては、とても高い意識で参加している。しかし、座学や実習における課題の提出期限の遵守や作品の品質向上において更なる指導が求められる。	【努力指標】 日頃の授業における課題提出期限(納期)の遵守や、作品(製品)の品質向上が実社会で求められる一つの規範であることを認識させる。	遅刻者数(実人数)減少の割合で判断する。 [継続] A 前年比10%以上の減少 B 前年比5%～10%未満の減少 C 前年比0%～5%未満の減少 D 前年比増	C以下の場合、活動の意義等についての啓発を図る。	生徒を対象にアンケート調査を実施する。 (7月、12月)
		② 交通ルール等の遵守など、社会の一員としての自覚を高める。	生徒指導課 各学年	違反指導件数は、前年より増加した。大事故につながらないよう違反指導件数の減少を目指す。交通事故等防止に向け、警察と協働した全校的取り組みが求められる。	【成果指標】 石川県警察が発表する月別の違反指導件数の減少を目指す。	違反指導件数(累計)減少の割合で判断する。 [継続] A 前年比10%以上の減少 B 前年比5%～10%未満の減少 C 前年比0%～5%未満の減少 D 前年比増	Dの場合は、生徒指導課を中心に、指導方法を再検討し、全校的な意識の変革を図る。	県警発表の件数で判断する。

重点目標	具体的取組	主担当	現状	評価の観点	達成度判断基準	判定基準	備考	
	③ いじめの早期発見・早期対応に向け、気になる情報についてはすみやかに共有し、組織的な対応を行う。	生徒指導課 全職員	全教職員が問題の未然防止に対する共通理解をさらに高め、きめ細かな指導、組織的対応を行い、未然防止に努める必要がある。	【努力指標】 生徒に寄り添い、担任や関係職員と情報交換を図り、未然防止・早期発見に取り組んでいる。	教員相互の頻繁な情報交換により、問題を未然に防ぐことができていると思うかについて、教師対象の学校評価アンケートの肯定的評価の割合で判断する。 [継続] A 90%以上 B 80%～90%未満 C 70%～80%未満 D 70%未満	C以下の場合は、指導方法を再検討し、全校的な意識の変革を図る。	教師を対象に学校評価アンケートを実施する。(7月、12月)	
3	専門的技術の向上、高度資格取得、各種コンテストへの挑戦を支援し、「AIに代替されない高度技術者」としての自信を確立させる。	① 就職希望者が100%内定するとともに、第1社目受験での進路実現を図る。	進路指導課 3年学年団	各学科に応じた求人数を確保し、企業が求める人材と生徒の資質や特性とのよりずれのないマッチングが求められている。	【成果指標】 就職希望者の1社目受験での内定率をみる。	就職希望者が1社目受験で内定した割合で判断する。 [継続] A 90%以上 B 85%～90%未満 C 80%～85%未満 D 80%未満	C以下の場合は、内容を分析し、次年度の進路指導に反映させる。	年度末に集約し、判断する。
		② 生徒の将来に役立つよう資格取得指導に積極的に取り組む。	工業7学科 教務課	教育の中核となるものである。本校の資格・検定を柱に据え、学科ごとに、より一層資格取得に取り組む必要がある。	【成果指標】 ジュニアマイスター認定者数の状況をみる。	認定者数(特別表彰+ゴールド+シルバー)で判断する。 [継続] A 70名以上 B 60名～70名未満 C 50名～60名未満 D 50名未満	Dの場合は、工業各学科で指導方法や指導内容を再検討する。	年度末に集約し、判断する。
		③ 全国レベルの各種コンテスト・コンクールにおいて上位入賞を目指す。	工業7学科	全国大会やコンテスト、各種コンクールがあり、本校から積極的に参加している。大会成績およびコンテスト等の結果は、各学科専門教育のレベルを測る指標の一つと捉える。昨年度は、全国大会優勝などの取り組みの成果があった。今後も継続して県大会はもとより、全国で活躍する取り組みが求められる。	【成果指標】 予選の有無やコンテスト等の特色により基準が異なることから、状況による判断基準を設定する。	[地区予選を経て、全国大会出場となる競技や大会]の場合は、大会出場の難易度で判断する。 [継続] A 全国大会でベスト16以上の成績であった B 全国大会に出場した C ブロック大会で入賞した D 県大会で入賞した [地区予選がなく、直接全国大会出場となる競技や大会]の場合は、出場した全国大会の成績で判断する。 [継続] A 全国大会でベスト8以上の成績であった B 全国大会でベスト16以上の成績であった C 全国大会で初戦突破した D 全国大会に出場した 各種コンテスト、コンクールの難易度で判断する。 [継続] A 全国レベルのコンテスト等で入賞 B 全国レベルのコンテスト等で入選 C 県レベルのコンテスト等で入賞 D 県レベルのコンテスト等で入選	Dの場合は、工業各学科で指導や取り組みの見直しを行う。	年度末に集約し、判断する。
4	校行事や部活動、ボランティア活動を通じ、多様な他者と協働する喜びを体感させ、豊かな人間性と社会性を培う。	① 活発な部活動やボランティアを通して、稼働率と成果の更なる向上に努める。	生徒会課	多くの生徒が部・同好会・ボランティア活動に意欲的に取り組んでいる。今後も部活動やボランティアの目的や目標を教員と生徒間で共有し、生徒が主体的に活動を続けるよう働きかけていくことが求められる。	【努力指標】 生徒が意欲的に部活動等に取り組むことができるよう、部活動等の内容の充実を図る。	部・同好会・ボランティア活動に意欲的に取り組んでいるかどうかを生徒対象の学校評価アンケートの肯定的評価の割合で判断する。 [継続] A 80%以上 B 70%～80%未満 C 60%～70%未満 D 60%未満	Dの場合は、部活動の内容充実に向けた方策を検討する。	生徒を対象にアンケート調査を実施する。(7月、12月ただし、12月は3年生を除く)
				全国大会に出場する部を増やすことと併せ、県大会で上位入賞を目指して取り組むよう働きかけていきたい。	【成果指標】 運動部・文化部のそれぞれが、県代表となることを目標に、活動のレベルアップを図る。	県全体の成績等で判断する。(個人・団体あわせて) [継続] A 全国大会5部以上出場または総体順位男子2位以内 B 全国大会3部以上出場または総体順位男子4位以内 C 全国大会1部以上出場または総体順位男子6位以内 D 総体順位男子6位以下	Dの場合は、部活動活性化に向けた方策を検討する。	年度末に集計し、判断する。

重点目標		具体的取組	主担当	現状	評価の観点	達成度判断基準	判定基準	備考
		② 学校行事に積極的に取り組む姿勢を大切にし、協調性や責任感など心豊かな生徒の育成を図る。	生徒会課	学校行事は人間力を育てる良い機会となる。全ての学校行事を実施するにあたり生徒の活躍できる仕掛けをつくるのが大切である。活動様子が保護者に伝わるよう、WebページやInstagramで積極的に公開していく必要がある	【満足度指標】 保護者の目から見た生徒の学校行事に対する満足度をみる。	保護者の目から見て生徒が学校の行事に満足していると回答する割合で判断する。 [継続] A 95%以上 B 85%～95%未満 C 75%～85%未満 D 75%未満	C以下の場合は、次年度の行事について内容を検討する。	保護者を対象にアンケート調査を実施する。 (12月)
		③ 健康診断の事後処理の指導を強化し、健康な生活を営むことができる能力の育成に努める。	保健課	昨年度も個別指導や担任、部活動顧問との連携により、歯科治療受診完了率が約74%。今年度は、視力検査の治療受診完了率も向上するよう、指導の強化を図る(昨年度約68%)。	【努力指標】 保健だよりなど情報提供により、視力検査・歯科受診率の推移をみる。	視力検査・歯科受診済の生徒の割合で判断する。 [継続] A 65%以上 B 55%～65%未満 C 45%～55%未満 D 45%未満	Dの場合は、学年団や部顧問と協力し、指導の取り組みの見直しを図る。	学期ごと受診結果報告書を集計し、判断する。 (7月、12月)
5	伝統ある本校の魅力と「工業教育の未来価値」を、SNSやWebメディアを通じて戦略的に発信し、中学生・保護者・地域へのブランド力を強化する。	① 学年だより、学校Webページ、学校、Instagram、懇談会・見学会、報道等を活用し、保護者や地域等への情報提供を充実させる。	各科・学年・各課	これまでも特色ある取り組みを発信している。しかし、取り組んでいる内容や量を考えると、アピールできる要素はたくさんある。発信の強化を図る。	【成果指標】 本校の教育活動についてよく理解できるよう情報発信する機会を設ける。	生徒・保護者・地域等に本校の魅力について理解を求める活動を行った回数で判断する。 [新規] A 6回以上 B 4回以上 C 3回以上 D 3回未満	C以下の場合は、次年度の情発信について内容を検討する。	教師を対象にアンケートを実施する。 (12月)